（午後３時51分　再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

本日最後の質問になりますので、あと１時間、頑張ってください。

順番14、11番　岩田君。

〔11番（岩田弘彦君）登壇〕

○11番（岩田弘彦君）議長のお許しをいただきましたので､一般質問させていただきます。

お手元に資料のほう、議長の許可を得ましたので配付させていただいております。それも私のつくった資料で、担当課に確認はしていただきましたので、数字的なものとか位置関係は概ね間違いないという確認をいただいておりますが、個人的な資料でございますので、間違いがあったらご指摘願います。そして、また説明会等に使わせていただきたいと思いますので、回収させていただいて再利用させていただくということで、これも行革でございますので、政務調査費かかっておりますのでひとつよろしくお願いいたします。

それでは、一般質問に入ります。

１、保育・教育環境について。①認定こども園制度の活用や、統廃合によるコストの削減効果が、サービスの向上や保護者負担の軽減に寄与しているところはどこですか。

②保育・教育施設の配置における「大きな地域間格差」について。６月、９月、12月議会においても、配置の地域間格差について指摘していますが、特に兵庫幼稚園、橋本東保育園の廃園近隣地域――図のほうで丸を打たせてもうていますが――は子どもが多い、一番下のところを見ていただきますと人数が出ております。他の中学校区と比較してみてください。にもかかわらず廃園後、この地域にこども園を設置しないのはなぜですか。他の地域にもこども園、学区をまたぐのはございますので、さらに、この地域を保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校のすべて設置のない、すべて遠い地域にしなければならないのはなぜですか。理由を教えてください。

（２）こども園の配置計画による全市的な保育・教育施設の配置間隔が、市役所を中心として、東西において「約２倍の格差」が予想されており、この格差が、少子化時代に、子どもが多い東部中間地点、兵庫幼稚園、橋本東保育園近隣地域だけに「保育・教育の空白密集市街地」をつくる結果になっていると考えます。

これではバランスのよい配置を図るのではなく､「配置の大きな格差」をつくり、少子化時代にも子どもが多いこの密集市街地だけを完全に「子育てに適さない、次の世代が住みにくい密集市街地｣にすることになりますが、どのように考えているのですか。

（３）隅田地域の説明会において、兵庫幼稚園廃園地域の幼稚園を利用している、保育園を利用している、これから利用する、両方を利用した皆さまから「もともと子どもが多いにもかかわらず、小学校・中学校も遠い上に幼稚園しかなく、多くの子どもたちが遠くの保育園などに通っているのが実情です。幼稚園の廃園は仕方ないとしても、全市的なバランスを考えてもこの地域にこども園の設置が必要」との強い意見があり、これは市長も同席されておりました。また、パブリックコメントにおいても同じ意見が一番数多かったとのことです。この意見は、単なる地域要望ではなく、全市的な計画の方向性を踏まえた

上の地域間格差に対する、私は正当な意見と考えます。こども園の設置に向けて、配置計画を見直すべきではないのですか。

大項目の２番です。こども園における短時間児――いわゆる幼稚園児です――の満３歳保育、これよく間違われるんですが、満３歳保育というのは、満３歳になってその年度に４歳になる幼児のことです。

①満３歳児の就園状況について。

②少子化、核家族化の進展による保育に欠けない満３歳児（満３歳になっておりその年度に４歳になる幼児）の状況、並びに取り巻く現状について。

③こども園の認定基準に関する条例において「満３歳以上のこどもに対し、学校教育法第78号の各号に掲げる目標が達成されるよう保育を行う」とあるが、本市はどのように考えているのか。

④市としては、あえて短時間児の満３歳児保育をしないのに、民間の幼稚園の満３歳児保育を認め、市単独事業として――国・県の事業というのはまた別にあります。これは市単独事業です――市立幼稚園満３歳児に就園奨励費特別補助をしているのはなぜですか。

⑤少子化、核家族化の進展による本市の満３歳児の現状を考えた場合、こども園において短時間児の満３歳児保育の選択肢をつくるほうが母親の健全な愛情を受けやすく、家族のより健全な触れ合いにつながり、第２子、第３子も産み育てやすくなると思います。橋本市はひとりっ子政策をしておりませんので、和歌山県全体に紀州３人っ子政策をしていると思います。こども園において、短時間児の満３歳児保育をすべきではないですか。

以上、１回目の質問を終わります。簡潔な答弁、よろしくお願いします。

○議長（中上良隆君） 11番　岩田君の一般質問に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（森本國昭君）登壇〕

○教育長（森本國昭君） 岩田議員のご質問にお答えをいたします。

まず、満３歳児の就園状況についてでありますが、平成19年５月１日現在の３歳児の総人数は531人。うち公立保育園に通園している園児は255人、全体の48％です。私立保育園通園児は39人、全体の７％。私立幼稚園通園児は117人、全体の22％。在宅児は120人、全体の23％という状況で、幼稚園に通園している３歳児と在宅でいる３歳児はほぼ同数ということになります。

次に、保育に欠けない満３歳児の状況並びに取り巻く環境についてでありますが、発達的に見れば、３歳児は親子の関係を充実させていく大切な時期であるとともに、集団としての芽生えの時期であります。しかし、現在の本市の現状では、先ほどのとおり、公立、私立保育園、私立幼稚園へ全体の77％の３歳児が通園している状況があります。在宅で子育てをしている120名のこどもの親は、親子のつながりを大切にし、家庭教育に一生懸命取り組み、子どもにかかわっているものと考えております。しかし、中には近所に同年齢の子どもや在宅で子育てをしている親が少ないため、子どもの集団性や社会性の育ちに不安を感じたり、親自身が子育てに不安を感じていることもあろうと思われます。

そこで、３点目の本市における３歳児保育についての考え方ですが、まず第１に、０歳から３歳までの在宅で子育てをしている家庭については、親子が集い、交流できる場の充実に努め、親の子育てに対する学びの場や子育て不安の解消、さらに子ども同士のかかわり合いが地域でできるようにしたいと考えております。議員にご指摘いただいているこども園の短時間保育における３歳児受け入れに

ついては、子育て支援の観点から有効であることも理解しておりますが、保護者や子どもの現状をさらに見きわめていきたいと考えます。

なお、私立幼稚園児保護者への就園奨励費についてでありますが、これは公立幼稚園、私立幼稚園の保育料にかなりの費用差があるために、平成９年７月から年間２万円を援助しているもので、直ちに３歳児保育の家庭に対し援助を打ち切ることは、私学助成の観点から困難であろうと思われます。

最後の、こども園において、満３歳児保育の選択肢をつくるほうが母親の健全な愛情を受けやすく、家族のより健全な触れ合いにつながるのではないかという質問ですが、さきにも述べましたように、この点につきましては子育て支援の一環として考えられますが、まずは地域の子育て支援を充実させるという考えでおりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

〔幼保一元化担当参事（前田彦尚君）登壇〕

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）保育・教育環境についての質問にお答えいたします。

１点目の認定こども園制度の活用や、統廃合によるコスト削減効果によるサービスの向上と保護者負担の軽減への寄与についてお答えします。

こども園制度の利点は、同じ地域、同じ年齢の児童が、親の就労にかかわらず同じ施設で教育・保育を受けることができ、さらに在宅の家庭も含めた親子の交流や仲間づくりなどの子育て支援を受けられるところにあります。開園時間も朝７時30分から午後６時30分までの11時間を予定しており、０歳児から５歳児までの長時間児は利用が可能です。短時間児は、給食後午後２時までを基本としていますが、預かり保育を希望すれば午後４時までこども園で過すことができます。公立のこども園でありますので、保育料は短時間児・長時間児とも公立の幼稚園・保育所と同じ料金です。

次に、保育・教育施設の配置における大きな地域間格差についてですが、幼保一元化５カ年計画は、地域の子どもの数で計画を立てたのではなく、今ある幼稚園・保育所の園児数をもとに将来人口推計から幼稚園・保育所の園児数を推計し、統廃合を検討し、作成したものであります。したがいまして、地域間の子どもの数や保育・教育施設についての多い少ないについては、多少あることは否めないことであると思います。

次に、こども園の設置に向けて、配置計画を見直す考えはないかとのおただしですが、今回の幼保一元化５カ年計画の説明会やパブリックコメントを通じて、多くの市民の方や保護者の皆さん方からご意見をいただきました。いただいたご意見については一定時間の猶予をいただき、今後の課題を整理し、検討したいと考えています。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君、再質問ありますか。

11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）まず、大きな項目、保育・教育環境についての１番なんですが、子育て支援をしていく、11時間保育、給食がある、２時まで幼稚園、短時間で預かることができるという中で、まず確認したいのが、開所時間11時間、それは月曜から土曜日までということで、これ一つ確認です。まずお願いします。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）月曜日から土曜日まで、11時間開園しております。

以上です。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）そうしたら、次、保育料のほうなんですが、今、保育園のほうは国基準のだいたい80％ぐらいをうちの市はめどとしているん違うかなと。これ合併協のときに、私、大分保育料についてもやりましたので。それと、幼稚園の場合は国基準100％と違いますか、6,100円というたら。ひょっとしたら。その辺ちょっと、だいたいうちのめざしておる国基準に対する保育料、幼稚園と保育園のほうを確認したいんですが、お願いできますか。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）保育料につきましては、国基準の、ちょっと細かい数字は記憶にございませんけれども、約７割から８割というふうに聞いております。幼稚園についてはちょっとわかりませんので、教育委員会のほうへ聞いていただいたらと思います。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）幼稚園の保育料は、議員ご指摘のとおり国基準でいただいております。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）先月来、保育を考える会の皆さんのアンケートのほうもちょっと読ませていただいたんですが、保育料に関してはこのぐらいかなというご意見の方も、アンケート多かったみたいですが、できましたら、五つの施設を一つにします。皆さんはちょっと遠くなるんですが、ちょっと保育料も安くさせていただくのでご協力お願いしますという考え方というのは、全部をそれに充当せえとは言いませんが、やっぱりある程度コスト削減された分で住民のほうに、保護者の方にも還元していくという部分が、やっぱり金銭的にも必要ではないかなというのはあります。

そして、先ほどから教育委員会のお話を聞くと、なるべくはお母さんに子育てしてほしいという方向性なんですよね、うちの市は。そしたら、幼稚園のほうが国基準いっぱいいっぱいまで使うんじゃなくて、幼稚園のほうをもうちょっと、国基準の８割ぐらいにするとかしたほうが、幼稚園を選択していただくと、昼からお母さんとおる時間が長いわけでしょう。僕は、政策的に言うと、そういう方向に持っていく。仕事されている人は、今、女性の方も仕事をされているので、これは政策的な話なんですが、橋本市がそっちのほうがええと思うんやったら、そっちのほうに近づいていくような政策を打つのが、これが政策やと思うんです。料金の格差とかよく言われますが、しかし、本来めざすビジョンの方向を向いてめざしていくのがええんと違うのかなと思うので、まず、保育料の軽減は考えられないのか。それと、幼稚園の保育料の軽減は考えられないのか。おのおの答弁をお願いします。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）保育料の軽減については、今のところ考えておりません。したがいまして、この前につきましても公立の保育料を横並びと同じという考え方でとっておりますので、ご理解のほどよろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）教育次長。

○教育次長（岸田茂利君）幼稚園に関しましても、合併を機に国基準並みに要件を改定させていただいたという契機がございますので、このまま国基準で保育料をいただきたいというふうに考えております。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）保育料に関しては、私は本来であるのであれば、子育て支援というのは、言えば統廃合しなくてもせんなんこと

やと思うんです。だから、統廃合したさかい子育て支援をするというのでは、教育委員会の話ではないですやん。子育て支援はやっぱり必要やさかい頑張る。僕は賛成ですよ。これやってほしかったもん。だから、その統廃合から直接ということになると、ある程度やっぱり住民の皆さんにも還元する部分、行政コストを、言うたらコストが落ちて、そのうちの80％はコストの軽減に使わせてもうて、あと20％は保護者の皆さんのサービスがようなりますよみたいなところが要ると思いますので、今の本市の状況から言えば、現状の保育料が上がらないというのが精一杯という財政状況もわかりますので、今後、どないか工夫して保育料のほうにも反映していけるように検討していただきたいということで、要望ということでとどめさせていただきます。

そしたら、２番に行かせていたいただきます。

格差は多少あるということでしたんですが、皆さんに資料をお配りさせていただいたんですが、これ１回ちょっとやってみたかったんですが、国会議員さんみたいに。一目瞭然や思うんですが、ここに完全な空白ができる。ここの完全な空白に住んでおる子どもたちの人数が、この一番下にありますが231人で、西部中学校区、学文路中学校区、橋本中学校区と、だいたい同じような子どもさんが住んでいる。その中で、こども園、小学校、中学校、保育園、幼稚園の数をずっと見たら、この地域は空白ですので施設ゼロと。ほかのところは小学校なり中学校なり幼稚園なりこども園なりがあるわけですよ。こういう保育・教育の空白の、それも市街地でしょう、密集市街地は。私は、完全に橋本市は保育・教育が低迷すると思いますわ。こんなん住めれへんもん、ここへ。

この間の隅田のお母さんのときも市長、聞いていただけたと思いますよ、おなかの大きい人だったと思います。これから赤ちゃん産む人ですやん。こんなとこ、えらいところへ住んでもた、みたいな。ゼロにされてしもてと。これから頑張って２人目産もう、３人目産もうと思とんのにというお話ございましたでしょう。だから、私、これ多少じゃないと思うんですよ。格差が多少あるのはしゃあないですよ。何かあってくれたら、僕もこんなん質問しませんよ。でもゼロですやん、これ。何でそこまでせんなんの。ここに住んでおる人は子育てせんでええということなんですか。子育て世代はここに住んだらいけませんと。僕、そのぐらいのことやと思いますよ、これ。皆さん、思いませんか。これ図面見て、ほんまに。何もないんですさかい。それ多少じゃないでしょう。これは、そしたら質問変えますが、保育・教育の空白市街地ではないというお考えでよろしいんですか、橋本市は。一つお答えください。

○議長（中上良隆君） 幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君） 幼保一元化の５カ年計画作成に当たりましては、地域の子ども数というよりも、例えば現在ある統廃合できる幼稚園、保育園という形で統廃合を考えさせていただきました。したがいまして、例えば今話になっている兵庫幼稚園ですね。15名おるんですけれども、子どもの数は確かに多いんですけれども、兵庫幼稚園へ通われている保護者の方は15名と。来年もそんなに増えることがないということで、それだったら小さい園を大きい園、保育所のほうへ統合していくと、こういう考え方で統廃合を計画させていただきました。その点、ご理解のほうをよろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君） 11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君） あのね、わかるんですよ。だいたい机の上でやっているとね、僕、

何も責任追及とかそんなんしていませんけど、結果こうなっていますよという話なんで。だいたい小学校区に１個とか、公民館をつくるのでも、そういう中学校区に１個とかという単位でやるのが一番やりやすいからやっていると。

６月、９月、12月議会でも指摘させてもらいましたが、ここ何でこないなったかと言うたら三つの小学校を１校にしてあるんでしょう、過去に。その同じ、年々小学校区自体の範囲が違うし、してんのに、人数も違うのに、それやのに、それを一つの基準として考えるからこうなってしまったんで、これ結果は結果なんで、ここに空白部ができてしまったということは、そしたら、何も責めませんよ、改善してくれたらいいんですから。空白部ができているというのは認めてくれるんですね。図面を見て。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）今現在につきましては、子どもの数というのはこのとおりだと思います。いろんな開発等々で、地域の子ども数というのはいつまでもこの数であるとは限っておりません。５年、10年、15年、将来的に見ますと、一定時期、この地域にはたくさん、子どもが多かったという時期はあるんですけど、それがいつまでも続くということはございませんので、流動するということを考えております。そうしますと、今現在はこういう形の人数になっておりますけれども、将来やっぱり考えた場合、施設を中心に統廃合を考えておりますので、その点ご理解のほうよろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）人数推計とか、人口推計とかわかるんよ。それ全市的なやつやろ。ここの地域だけおれへんなるという話と違いますやん。どっちか言うたら東のほうは子ども減りにくいんと違いますか、人口推計でいうと。こない出ているのやったら。全体に減っていくというなかなんでしょう。ほかのとこの配置は、だいだいの、いいじゃないですか、西部地区も学文路地区も橋本地区も、ええ配置状況になっておるん違うん。

だから、ここの地域だけがこないなっているよということなんです、私の言うているのは。人口減るのは、子どもさん減っていくのは、全国的に、全体的に減る人口推計をしておるんでしょう。全体的な計算値を出しておるんでしょう。ここだけ減るん違うんでしょう。だから、私が言うのは、ここ、そやからもう時間がないんでね、次の２の配置間隔についても言わせてもらいますけど、これもぱっと見てもうたら、ここからここまで四、五キロですわな。だいたい西部まで２キロ、応其まで２キロ、今の高野口向島までだいたい２キロ範囲でおさまっておるん、これ。だから、空白にならなくて、ここに１個あったらバランスどえらいええわけですよ、これ。はっきり言わせてもうたら。

ほんで人数もそうですやんか。人数的にもそうなんです。何でかと言ったらね、過去の学区で計算しておるでしょう。今からどないなるかという、子どもの立場に立って計算したってよ。40年前の話でしょう、これ。隅田小学校、この間やりましたがな、バス通学で。あ、市長、ありがとうございます。だから、私言うてんのは、今から将来に向かって今の計画をつくっておるんでしょう。だから、今の子どもとかお母さんはどこにおるんか。どこに増えそうなのか。もしくは反対に、ここに増やそうと思ってつくるのがムーミン谷やったんでしょう。家買うてもらおうと思って。だから、過去のやつに、旧体制のやつに合わせただけになっているんで、怒っていません

よ、なっているのでどないかしてください。だから、なっていることは認めてくださいよということなんです。認めますか認めれへんのか、それを教えてください。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）兵庫幼稚園を廃園にしますと空白になるということは認めさせていただきます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）ほな認めていただけたということは、次にいかせていただきます。認めたということは、直さなあきませんわな。そうですね。

そうしたら言わせてもらいますが、私これにつきましては、去年の６月、こども園計画が発表されたときに、市民参加の手法を策定段階にとっていないけど大丈夫ですか、検討委員会も開いていないけど大丈夫なんですかと、議事録読んでくださいよ、質問させてもらいました。そしたらこれについては、トップダウンというかビジョンを示した中で、皆さんの意見を聞いて、直すべきところは直しますということで答弁返ってきましたよね。パブリックコメントをしますということでしたね。８月にやったんでしょう。これには命かけていますから、皆わかっていますから、頭の中で。やった結果、何が多かったんですか。ここにつくってというのが多かったん違うん。そうでしょう。その時点の答えが12月の市の広報に出ましたわな。検討しますと。何ぼ検討しとるんよ。９月から検討してんやろ。ほんで、こんなことを９月から検討しておって、まだ検討するんですか。もう始まるんでしょう、次の計画。

そして今度は説明会に行ったわけですやんか。本来トップダウンでビジョンを示して、ボトムアップで市民の皆さんの聞くべき意見を聞いてつくり上げていくという手法をとったんでしょう、今回は。違うんですか。トップダウンだけで行くんですか。そうじゃないでしょう。だから、聞くべき意見は聞くんでしょう。これが聞くべき意見に値するかどうかですわ。いろんな要望、上がってきますよ。１番のやったら、うちの横へね、僕言うてええんやったら、「わがまま言え」言うたらな、私の横へ役所つくって、病院つくって、保育園つくって、幼稚園つくって、小学校つくって、中学校つくってと言うても要望でしょう。いろんな要望の中で、ボトムアップで聞くべき意見に値するかどうかという判断をするのに何ぼかかっておるんな。そんかい決断力ないん。うちの市は。検討しておるのは９月からしておるんやろ。

でも、これ市長わかっておると思うんよ。市長はつくる気でおってくれとると思うんやけど、あかん、あかんととめておる女性の人がおるんや。そやから、私の言いたいのはね、市長、これお母さん、切実に訴えていましたやんか。そのお母さんの訴えをね、正当な訴えやからおれは必死になっておるんですわ。間違うた訴えやったらここで言いませんよ、こんなもんまでつくって。正当な訴えを市長、議場でやりますと言うてくれましたよと。それでこそ、市民と協働のまちづくりと違うんですか。正当な訴えを聞くというのが。そうじゃないんでしょうか。まず、副市長は１回これについて答えてくださいよ。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）９月から検討していますということが出ているということで、岩田議員おっしゃられております。橋本市としては、今現在、隅田のすみだこども園ですか、そこの議論についてはまだ高野口のこども園のほうで集中して取り組みをしておりますので、そこについての具体的な話については、ちょっとまだよう入っていないんですが、た

だ、私といたしましては、すみだこども園をそれじゃやめるかといったら、そうはならないと考えております。やはりすみだこども園についてはやっていかなければならない。

その中で今、言われている河瀬の地域といいますか、兵庫幼稚園の廃園もその計画に入っておるわけでございますが、そこの幼稚園をどうしていくかということは、すみだこども園の検討の中で十分議論はしていかなければいけないかなとは思います。ただ、兵庫幼稚園が廃園に問題があるのであれば、それを一つ残していくというのも一つの考え方になるでしょうし、そこのところは十分いろんな状況も考えながら議論をしていかないといけないのかなと。今の時点でどうこうするというのはちょっと申し上げられない状況であります。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）幼稚園残すとは、だれが残してほしいと言うたん。全然できていませんやんか、そんなこと。それやったら根本、おかしいで。来年５人か６人になるからやな、幼稚園、ほんでこれ幼稚園、そのまま置いておいたら１人、２人になっていって、それやったら子どものためによくないさかい、こども園にせなあかんというの違うん。もともと根本間違っておるやん、それやったら。それやったらはなから幼稚園、保育園一緒にするとかと言えへんだらええん違うん。そういうことじゃないですやん、私言うてるのは。そんなことじゃないでしょう。ここにこども園、いるん違いますかという話をしておるだけの話やんか。でしょう。そうです。設置場所ですよ。

○議長（中上良隆君）副市長、答弁は簡潔にお願いします。

○副市長（清原雅代君）兵庫幼稚園の解釈については、私のほう訂正はさせていただきますけれども、一次計画の中では、いわゆる橋本の幼稚園とかも含めた中で、橋本東保育園との統合とかという計画になっておりますので、そこらについては本当に一からの議論が必要になってきますが、今のところ、まだそこのところの議論は何もされておりませんので、今の中で、そういったこともどうするかといったことも含めて議論をしていかないといけませんので、そこの部分についてのはっきりとした答弁はできないというところでございます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）副市長はあんまり理解されていないみたいなんで、申しわけございませんが、市長、この間の説明会でもおっしゃっていただいていましたが、ひとつご答弁よろしくお願いいたします。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）岩田議員の再質問にお答えしたいと思います。

過日、隅田での集会がございまして、まず感じたことは、認定こども園については非常に時代に即応して好ましいんではないかという意見が大半を占めました。100％ではないですよ。いかがなもんかなという人も一部おりましたけども、空気として、発言されたのは、私は、非常にこれは橋本市で進んだ地域やなととらえたわけであります。

ところが、次にだんだん入ってまいりますと、場所の問題で十数人の男子女子問わず集中砲火を浴びまして、位置の問題が議論の焦点になってきたわけであります。そういう中で、私も逃げるわけにもいきませんで、最後、苦渋の選択をしまして、このことの話は、まずこの認定こども園を行政で検討して、そしてだんだんと地区へ入っていきますよということで、住民の皆さんの意見も広く受けとめ

て、これトップダウンじゃないんだという話も、この間もしました。

それで、聞かせておくれよと言うたら、どんどん意見が出ました。そういう中から、やはり私としては１回再考すべきやなと。場所の問題。なぜかというと、隅田の今後の人口動態というんですか、私なりに字別に見てみますと、あの地域が今までの15年、20年の間でも非常に増加率が高いんですね。それは言えると思うんです。隅田では、やはり北部の旧来のところとか、もう一つ東のところとまた違った形の発展がされておる。今後とも、それなぜかということはきょうは差し控えますけど、私は私の、なぜ家が増えるかということは､利便性､いろいろ点はありますけど、それ以外に大きな問題が一つあるんですよ。それはきょうこの会議では差し控えておきますけどね。言いかえると山内のほうはなぜ増えへんかというと、なかなか資産管理がしっかりしていましてね。なかなかああいうところへは入るすきがないんですね。

さておいて、そういう面もあるわけでございますので、今後ひとつまた十分教育委員会部局とも早急に我々検討させていただいて、最終結論を、原田保育園の問題もありますから検討したいと考えておるわけでございます。特に、原田地区についての話もまだしておりませんし、やはりそれらとも話を、一度意を通して、そして土俵の上で議論をして、隅田が22年の春に開園という予定であるものですから、それと同時になるか検討して。

ただ、一つだけ申し上げておきます。これは公設民営とはいきませんよ。いくかもわかりませんけども｡そこまでは言うておきます。答弁、なったかならんかわかりませんけれども、十分何して、そして議会とも十分議論をして、間違いのない、しかし基本は子ども一円の５カ年計画というものを基本にしておるものですから、それで、公設民営でこうでいくということになっていますので、それを羽目をはずすということは、その空白地帯は公設民営で必ずいかんなんと、これは、私は責任持ちかねます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）このままではないと、ちゃんと見直しますということやと理解させていただいて、熱弁を聞かせていただきましたのでよろしくお願いいたします。

次に､満３歳児保育のほうでございますが、満３歳児の状況で、77％就園しておってというお話でしたよね。方向としたら、自宅で頑張って子育てしておる人が23％という中で、一つ就園状況でお聞きしたいのは、残りの23％の人、120人の選択肢、民間には選択肢、現実あるわけですよね、幼稚園の。民間は高いんちゃうかなというのがあるので、高いがゆえに、選択したくても選択できないという状況になっているということは考えられないんですか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）私はいつも、やはり３歳児までは親の責任においてきっちりと育てていくのが親の普通の姿やないかと。いける親はですよ。そういうことで、現在子どもを育てていく人が23％だと思っておるんですけど。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）聞く話なんです。お母さんによく聞く話で、民間園、支援もしておるんでどのぐらいかかっているかというたら、料金にしたら月３万、４万、なんやかんやオプションついていってというふうによく聞くんで、結構高いなというように聞くんで、そのぐらいするとね、やっぱり利用したくても利用できない。うちとしたら、それやったら

３歳児はそない追い込んでいっておるという形になると思うんですよ。だから、お金のない人は３歳のは利用できにくいみたいな状況になっているん違うかなという、一つ心配をするんです。満３歳児をやっているんですから、民間のほうはね。

それと、民間のほう、満３歳になって入学すると、僕５月生まれやったらすぐ４歳ですわ。言えば、その１年前には満３歳になっておると。満３歳になったときに幼稚園のほうを利用するぐらいまでいっていますのでね。それも言えば、お母さんともっとおってもらおうという政策からしたら逆行していますでしょう。その辺を子育て支援のほうでカバーしていくというお話ですが、そしたら、子育て支援のほうの指数としたら、子育て支援が成功したという指数はね、家で子育てしようという人が増えたら、子育て支援の成功というふうに考えたらええんかな。その成果を評価するときにね。どうなんやろうなと。その辺の子育て支援を今頑張っていくとおっしゃっているんで、子育て支援の成功の評価は何をもってするのかなというのが、今僕としたらいろいろ考えるところがあるのでね。その辺、思っておるところがあったらちょっと教えていただけたら。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）先ほど言わせていただいたように、子育て支援をさらに進めていきたいと教育委員会は思っておるわけです。これからはぜひ大事であると。今、岩田議員が言われていますように、やはり第２子、第３子を産む場合に、子どもがおる場合、大変育てにくいというご意見もいただいております。やはり３歳児保育は、教育委員会としては、できるだけそれをしないで親の責任において育てていただきたいわけでございますけれども、それも子育て支援を十分しながらでも。ただ、いろいろ議員のおっしゃっておる、５番に書いていただいておりますように、第３子も産みやすくなるようにという意見もございますので、そこら辺、やはり３歳児保育も考える余地があるのではないかなという感じはしております。ただ、３歳児になってすぐに幼稚園へ入れるということになりますとやはり無理が生じると思いますので、そこのあたりを十分検討しながら考える余地があるのではないかとそういうふうに考えております。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）ちょっと質問の仕方がまずかったんで反省していますが、これ３、４、５と続けて全部総括ということで再質問させていただきます。

一番言いたいのは、満３歳児とよう言うけども、さっきも言うたけど、僕は、ゼロから満３歳になるまでが一番お母さんとマンツーマンで頑張らんなんときやと思うんです。３歳から４歳になるところはちょっと微妙ですが、３歳児というのはさっきも言うたみたいに、僕が５月生まれですが、入園するとすぐ４歳になるんでね。だから、ほとんどほんまに集団性というのが必要な状況になってくると。

その中で頑張って家で子育てしようとしたときに、次の子がおるとか、そういうパターン。出産のときは前後何週間か保育園で見てもらえますが、現状としたらその状態でおると。そうしたら、上の子がほんまに集団性のほうを望むんで、どえらいちょろちょろし出して、朝から晩までと。その中で次の子を育てようとか産もうとかと考えていく中で、さっきも言っていたけど、地域の子育て支援力が低下しているわけでしょう、今。

そうしたら一番思うのが、お母さん方の意見ですが、一番あるのは、昔やったら、うち

もそうですわ、おじいちゃん、おばあちゃん助けてくれたり、近所の人がその子をとってくれたり、とってくれたりとは言葉は悪いですが、ちょっと手を離してくれるので、次の子のことをしながら家事もできる、何々もできるというのはあったし、子育て仲間がおったんで心強かったけども、その子育て仲間とかというのは子育て支援のほうでいけると思うんですよ。ただ、そやけど、子育て支援の今考えているやつというのは、お母さんと子どもが常に一緒に行かなあかんでしょう。ほんなら離す期間が、ちょっと離してあげるということも考えてあげないと、お母さんいっぱいいっぱいの状態というのがすごくあると思うんです。

だから特に２人目、３人目産んでいってもらおうと思えば、その状況をお母さんにつくってあげないと。ほんまにまじめに子育て頑張ろうとしている人は、２人、３人産もうとしていますから。そら教育長が心配しているね、ようわかるんですよ、お母さんがほんまに放棄するみたいな形になれへんかなと。ただ、僕思うんですけど、いろんなニュースも見ていますけどね、ほんまにお母さんが放棄しようとする人は施設あろうがなかろうが、ありますやんか、パチンコ屋へ連れて行って、駐車場で子どもほっておいてパチンコしておったと。そないなってほしない。子どもがかわいそうかなと思うんです。

今のだいたい、行政といったらそういうところもあると思うんです。それをカバーしようと思ったら、僕は教育長のおっしゃる子育て支援を頑張っていくと、これが特効薬の一つやと思います。それは当然するんですが、と同時に３歳から４歳になる状況を持っている人はやっぱりある程度、半日でも助けてあげるという選択肢をつくってあげないと、次の子、次の子となったときにはお母さん、１人でいっぱいいっぱいというのがあるので、ぜひとも短時間児の３歳児保育を選択できるように。だからおっしゃったとおりに、３月生まれの子は、これは13番議員さんも言うていましたが、３歳児で満３歳になってすぐという子と、４月生まれやったらもう４歳という子があるんですよ。その大きな差はあるので、それは選択できるようにしてあげたら結構ですので、ぜひとも取り組んでいくと。

そして、それも子育て支援の、少子化対策のところへ僕はつながっていくと思うんでね。それがないと、どうしても虐待にもつながると思うんですよ。上の子か下の子が虐待されるというふうな状況にもつながっていくと思いますので、ぜひともやっていっていただきたいということで。どないか、もうちょっと前向きの答弁、お願いできませんでしょうか。

○議長（中上良隆君） 教育長。

○教育長（森本國昭君） 橋本市は、教育委員会子育て支援をやはりしっかりとやっていきたいと。そういう中で、子育て支援を否定するようなことを言っていかれたら、私もちょっと混乱するわけでございますけれども、それは認めていただいて、さらに３歳児保育ということでお話ししていただいておると思います。

昔と今とは時代も変わっておりまして、実は私もこの質問ございまして、個人的に私とこの家内にも、あるいは若嫁にも聞いたわけです。今、父親は私、おるんですけど、もし私らがおらなかったら、若嫁にどうですかと。そしたら、３人目産まれたらそこら辺しんどいやろなという意見も聞きました。家内にも聞きました。そういうときにおじいさん、おばあさんおれへんで、自分自身そういう待遇におうたらどうかなと。やっぱり「三つ子の魂百までも」ということで大事やと思うが、しかし、実際的にいけるかどうかということ

を家内にも聞いたわけですが、やはりちょっとしんどいん違うかなという意見も聞いたんです。

そういう、時代が違って、今と昔とは違いますので、議員言われたように近所の母親の友達もいない、連れもいない、おじいちゃん、おばあちゃんもいない核家族の中では、母親１人では本当に大変であろうと。やはり１人ぐらいでしたら十分できるんですけれども、３人、４人ともなれば大変だろうということで、時代が違いますので、私も「三つ子の魂百まで」、今はそれは貫いておるわけですが、そういう状況であれば、やはりいろいろ考えていく余地があるのではないかと思っております。

そういうことで、一度ここら辺、政策面でございますので、市長部局と考える余地があるのではないかなとそういうふうに考えております。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）市長部局と協議して考える余地があるのかないかというお話ですので、市長部局自身はこれについてどのように、教育長は必要じゃないかという、前に質問したときと大分態度が変わっているというか、大分意識が変わっていると思うんですよ。

これにつきましては、政策的にこれ、言うたら完全に民間に行く、こう奨励しておるんでしょう。だってここに書いてあるもん、これ。私立幼稚園満３歳児に「就園奨励費、特別補助」、それも「市単独事業でやっております」ということは、橋本市はそれを勧めておりますということですやん。言うたら。これどない考えても。そういう政策になっていて、ほんで高い幼稚園の選択肢はあるけども、それだけ。

僕は、幼稚園の民間も安くしたってほしいんです。さっきも言うように、僕はどっちか言えば、半日集団性のほうは頑張るんで、どないかお母さん、自分で育てようとしてくださいよと。仕事を持たれるのも当然大事なことやし、仕事を持たないとあかん家庭もそら当然あるんですが、ちょっと頑張って半日でもお母さん、できるんでしたら、頑張ったってよという方向性からして、やっぱりこれ統一して、どこのこども園でも幼稚園でも満３歳の保育があるということで。市長、政策的と言うていますんで、政策としてぜひともやってほしいんですが、だれが答えてくれるか楽しみにしておるんですが、ひとつよろしくお願いします。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）基本的には、幼稚園に関する問題につきましては、教育委員会のほうでいろいろと検討していただいておることと認識しております。今まで３歳については実施しないとしてきた中で、今直ちに市長部局にと言われましても、どこにどのような問題があるのかということも十分把握できておりませんので、一度教育委員会と協議をしてまいりたいとこのように思います。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）そしたら、教育委員会とともに実施する方向で協議するということでよろしいですか。市長、ひとつ答弁よろしくお願いします。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）実施する方向で協議できるのかどうか、内容次第でございます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）その内容次第とは、どの辺が気になります。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）その問題点が私ども

よくわかっておりませんので、それについてはちょっとお答えはしかねます。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）教育長、問題点がわからないそうなんで、そしたらしっかり教育委員会のほうで説明していただいて、やっていただけますか。

○議長（中上良隆君）教育長。

○教育長（森本國昭君）私、一応検討するということで、市長部局と協議してと、それを市長部局と言われると大変気になりますので、そこまで言うということなしに、市長部局と一遍話し合いをしていくということでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）11番　岩田君。

○11番（岩田弘彦君）また平行線の気配がしてきましたので。そら長いこと続いてということですので。そやけど一定の皆さんも、聞いている人もわかったと思いますが、前向きな方向になっておりますので、ぜひともやっていただけるように、市長部局のほうは、お金のほうとかその辺はいろいろ気になると思いますが、それも２人目、３人目、産んでもらうためです。ということを理解いただきまして、十分協議の上、教育長はする気になっております。と思います。一つよろしくお願いします。これは答弁聞いていますので。

副市長はおれ、合わん。最後に、市長、一言答弁をよろしくお願いします。

（「そんなこと言うたったらかわいそう」と呼ぶ者あり）

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）私から岩田議員の質問にお答えしたいと思います。

先ほどから答弁したとおりでございますので、ひとつよろしくお願いをいたします。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）これをもって、11番　岩田君の一般質問は終わりました。

○議長（中上良隆君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明３月12日午前９時30分から会議を開くことにいたしたいと思います。

これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中上良隆君）ご異議なしと認めます。

よってそのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。

（午後４時48分　延会）